

一般 窓口業務の軟骨伝導イヤホンの導入を 織部 ひとみ（みどり21）



一般社団法人日本補聴器工業会の2022年度の調査によると、日本の難聴者は人口の約10%で、高齢化に伴い、今後さらに増える。役所等の窓口では、老眼鏡は置いてあるが、耳の聞こえづらい方向けには何もされていないと感じている。菊川市では高齢者や耳の聞こえづらい方などが窓口業務を利用する際、筆談や大声での説明が必要となり、コミュニケーションが困難であるという課題があり、これらの課題を解決する意味で、軟骨伝導イヤホンの導入への考えを伺う。

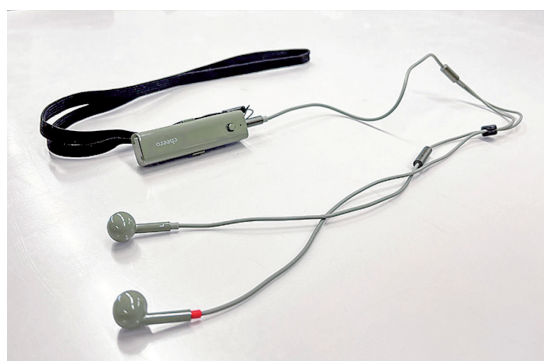
パンフレットやチラシなどを活用し、文字で確認していただくことで、必要なサービスの提供に配慮している。

Q 他市での事例を考慮して、菊川市でも効果が期待できると考える。市民の利便性向上のため、軟骨電動式イヤホンの導入の見解を伺う。

A 高齢者の利用が多いプラザけやき内の長寿介護課窓口に軟骨伝導イヤホンを導入する。他部署の窓口にも貸し出し、使用頻度や利便性効果を検証していく。

Q 窓口業務は、市民が直接、市のサービスを受ける重要な場面であり、特に高齢者や耳の聞こえづらい方にとって、その対応が非常に重要である。菊川市として、困難や課題についてどのように認識されているか。

A 耳の聞こえづらい方への窓口対応は、主に筆談や大きめな声で対応しているが、手間と時間がかかり、プライバシーの保護に配慮する必要がある。ゆっくり、分かりやすい言葉で話すことに心掛けている。また、



一般 道徳・いじめ・不登校について 須藤 有紀（みどり21）



Q 菊川市における道徳の授業の位置づけと取組内容は。

A 学習指導要領にあるように、子ども達が豊かな心を育み、よりよく生きるための基盤を培う極めて重要な時間と位置づけている。親切・思いやり、相互理解・寛容といった内容の指導や、初代静岡県知事の関口隆吉を題材とした郷土愛を育む全校道徳、学年を超えた話合いの授業等も行っている。

Q 地域社会との連携における学校側の意識改革の状況は。

A 多くの機関と連携し福祉教育、人権教育、ネットいじめを含んだいじめ防止教育等を行っている。園児から高校生まで交流を深めた挨拶運動など様々な取組を地域と連携し進める中で、心を育み、いじめ防止対策、不登校対策に繋がっている。

Q いじめ調査と実態の乖離は。

A 元静岡大学特任教授を講師とし、アンケート調査の結果が全てではないという認識の下、児童生徒理解や教育相談に取り組むよう進めている。

Q 我が市独自の教材作成は可能か。

A 市で統一した冊子の作成は可能。題材の準備、市で統一する調整が必要。

Q 新規不登校児は減ったとのことだがまだコロナ禍の弊害も多い。マスク着用の弊害、現状、対策は。

A 現在、市では感染症対策でマスク着用の指示は出していないが、マスクが外せない子がいるのは事実。マスク着用で安心して学校に来ることができるよう、無理に外す必要はないと考えている。

